

《担当者名》礒部 太一（心） tisobe@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

生命倫理の概要を、講義形式だけではなく、映像資料などを参照しながら、グループワーク、発表などを実施し能動的に学ぶ。医療現場で問題となっている事例（患者・医療者関係、安楽死と治療停止など）だけではなく、脳科学や生命科学などの現在進行形の研究から起因する倫理的・社会的問題や、社会における医療の役割などを学際的な観点から幅広く取り扱う。

【学修目標】

1. 生命倫理の基本的な概要や問題事例を理解し身につける。
2. 脳科学や生命科学に関わる倫理的・社会的問題について考え、内容を理解する。
3. 生命倫理の概要について、自分の日常生活と関連付けながら学ぶ。
4. グループワークと発表などの参加型の学習を通じて、議論するコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を養う。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	ガイダンス	授業全体の予定や授業の進め方などの説明	礒部
2	生命倫理の誕生と展開	生命倫理の概要と社会的・歴史的変遷について概説できる。	礒部
3	生命倫理の誕生と展開	生命倫理の概要と社会的・歴史的変遷について概説できる。	礒部
4	生命倫理の誕生と展開	生命倫理の概要と社会的・歴史的変遷について概説できる。	礒部
5	医の倫理	医の倫理、新しい医療のモデルについて概説できる。	礒部
6	「患者-医療者」関係	患者と医療者関係について概説できる。	礒部
7	インフォームド・コンセント	インフォームド・コンセントの歴史と意義について概説できる。	礒部
8	安楽死と治療停止	安楽死の歴史と概要、安楽死の問題点、安楽死を巡る日本の状況、安楽死と治療停止について概説できる。	礒部
9	脳死	脳死問題の背景と歴史、脳死の判定基準について概説できる。	礒部
10	臓器移植	臓器移植の歴史と問題、臓器移植と法について概説できる。	礒部
11	グループワーク	「死の受容」をテーマにしたグループワークを実施する。	礒部
12	グループワークの発表	「死の受容」をテーマにしたグループワークを実施する。	礒部
13	期末レポートについて	期末レポートの書き方について理解する。	礒部
14	医療の役割	健康と病気、医療の論理、医学の進歩と医学研究を概説できる。	礒部
15	まとめ	授業全体のまとめ	礒部

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

期末レポート（100％）

【教科書】

玉井真理子・大谷いづみ編（2022）『はじめて出会う生命倫理』有斐閣
戸田山和久（2022）『最新版 論文の教室—レポートから卒論まで』NHK出版

【参考書】

小林傳司（2007）『トランス・サイエンスの時代 - 科学技術と社会をつなぐ』NTT出版
神里 彩子・武藤 香織 編（2023）『医学・生命科学の研究倫理ハンドブック』東京大学出版会

【学修の準備】

- ・授業の前後において、教科書の該当箇所を一読する（予習復習2時間）。
- ・授業内で出した課題について、次回の授業の際までに行なっておく（予習2時間）。
- ・授業内で実施するグループワークと発表に積極的に参加する。一部、授業外で宿題として実施する（復習2時間）。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1: 人間の生命および個人の尊重を基本とする高い倫理観と豊かな人間性を身につけている。
DP4: 保健・医療・福祉をはじめ、人間に関する様々な領域の人々と連携・協働できる能力を身につけている。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している